



教学儀式研究班は定期的に会合を開き、相伝の研究と『三十七則御糺選要』の翻刻作業を行っている。

教學儀式  
研究班

## 「相伝」の教学と儀式に学ぶ

大阪教区文化センターの「教学儀式研究班」では、親鸞聖人から覺知如上人、蓮如上人を経て江戸後期の堀知如上人まで相伝続持されたと伝えられる本願寺の「相伝」について研究を行っている。『稟承餘艸』(ほんじょうまつづ)と、そこに記載される全三十七則に誤りがあると指摘し、相伝批判を展開する『稟承餘艸評破』については、前田英二郎・同研究班主任研究員に寄稿いただいた。教学儀式研究班(故・近松善一主任研究員)が研究を行った。現在、同研究班では、法幢が「稟承餘艸」を承けた邪義を説いた筈で本山に召され取調べを受けた記録を抜粋した「三十七則御儒選要」の翻刻作業を行っている。今年度は、第一則から第十一則までを文化センター紀要で発表する予定となっている。

御糺選要」の奥付に記されています。学寮の目的は達せられ、相伝教学は誤りとされ、本願寺の宗主から新門へと法脈を相承する大切な儀式も、第十九世乗如上人を最後に途切れました。

『三十七則御札選要』の原本  
益でないものはない、とします。御堂に阿弥陀如来像が安置されているのも、「如來の遷相向」という種解からなのです。能所不二、一切平等等の処に能所主伴をたてて示すことが儀式（遷相の化儀・仮儀）であり、在世仏と法藏菩薩の師資相承を儀式の初めと説き、衆生往生を誓ふの身を示し現わしたまうます」衆生往生を誓ふ

他方、法幢の御糺・御相伝は辺に立ち、弥陀教説を主導した学寮講師の説法の会座と考えます。学寮は機辺に立ち、阿弥陀如来が淨土が、学寮の邊相廻向の理へ往生なされるの、淨土解では、御堂の莊嚴の説から立ちもどりて生死海明がうまくできません。へ來らせらるるのと云う相伝の考え方で成立したことはないとなり」と声明儀式や御堂の莊嚴述べられています。

御堂や法要について、伝承しているのです。

儀式は還相の化儀  
なり」という「証券」の法藏菩薩が衆生より先に御自釈をうけて、衆生成仏し、衆生往生の誓と  
相伝では、往還二廻向が往生して得るべき真実なっている姿でもあります。衆生（所化）に信心  
は共に如來の廻向であるの証果を仏が成就して真す。衆生（所化）に信心  
伝り、往相は阿弥陀如來の弘土を建立され、真仏土を得寄せしめたまゝ阿弥陀  
自利成就、還相は如來のに対しても化身土（飼経）陀如來（能化）の利他教  
口利他成就としています。『阿弥陀經』の身土）を化地の益を顯す方便法身  
り詳しく述べ、往相は衆建立なり、そして淨土なので、現在も本山下付  
人生の往生の証として阿弥三部經以外の諸經のみな御本尊には「方便法身  
人令陀如來が成仏されることらず佛教・老莊の教えに尊像（形）と裏書きが  
則です。  
至るまで還相種々身の利益されているのです。

他方、法幢の御糺・御相伝は辺に立ち、弥陀教説を主導した学寮講師の説法の会座と考えます。学寮は機辺に立ち、香月院深勵は、廻向はす。学寮は機辺に立ち、佛につきて名づくる名、報謝の念仏の道場と往相・還相の言は衆生に約して名づくる名と主張します。相伝は否定されましたし、「阿弥陀如来が浄土が、学寮の還相廻向の理へ往生なきれるの、淨土解では、御堂の莊嚴の説から立ちもじりて生死海明がうまくつきません。」へ來らせるるのと云う相伝の考え方で成立したことほなし」となり」と声明儀式や御堂の莊嚴述べられています。が、当時のまま現代まで御堂や法要について、伝承されているのです。

嗣講・雲華院大會によつて「稟承餘紳評破」(相  
寮内でも相伝の教學を語つたよつです。学寮の  
嗣講・雲華院大會によつて「稟承餘紳評破」(相  
伝の「稟承餘紳」を評し  
て論破する)が講じられ  
た文化三年(一八〇六)、  
異義者(異安心)として  
肥後國の仲間とともに本  
山に召されて聞調べへ聴  
取を受け、翌年から三  
度に亘る御聴、そして御  
教説という处分を受けま  
した。

Digitized by srujanika@gmail.com